

第56回全国子ども会育成中央会議・研究大会参加リポート

10月28日～29日出席

【1日目】

京王プラザホテル札幌にて、指導者及び育成者の個人の部で表彰していただき、主人には感謝状を拝受いたしました。ありがとうございます。

その後、記念講演で『子どもの心をのぞいてみれば～地域医療から見る問題点と対策～』というテーマで、中塚尚子（香山リカ）先生のお話を拝聴しました。

北海道穂別と都会の違いは、生活における利便性などにおいては違いがあるが、スマホやネット社会が常時身の回りにある環境は、都会でも穂別でも、世界中、時間も距離も関係なく繋がることのできる事で、子どもを取り巻く環境を激変させました。

それにより、子ども時代に経験や体験することが変化し、また世界中と無条件に繋がることで事件に巻き込まれることが多くなり、その殆どが死に直結していることから、地域でのつながりの大切さ、親でもない相談できる大人とのつながりが大切になってくるということです。

そこでやはり地域での活動を通して、子どもと繋がりを持つ子ども会の大人の役割は、ネットでは出会う知らない人に繋がらないよう、相談できる身近な大人であることが大切です。といったお話でした。とても大切なお話で大変勉強になりました。

【2日目】

『ICTを活用した広報活動』というテーマの分科会に参加しました。

※ICT：Information and Communication Technology：情報通信技術

※IT：information technology：情報技術

こども会活動には、参加してくれる『子ども』『リーダー』『育成者』が必要だがまずは『集客』『人集め』を進めるためにICTを活用して広報活動をしてみませんか？という内容でした。

- ① ネットやアプリを使って、《より早く》《より正確に》情報を共有し、生産性や業務効率を向上させて、事務作業を減らすことができる。という事がメリット。
- ② 情報（キャンプや行事）を新しい人（保護者・関係者）により早く、より正確に伝えるとともに、安心感や楽しさも同時に伝えることができる。
- ① と②を通すことで、参加者もスタッフもリピートして参加したく（させたく）なる。また行事やボランティアについても知り合いに伝えたくなる。

手法については、

- ・自分たちの活動にあったネットサポートなど支援してくれる所を探し、何がどうできるか調べる。

- ・全く分からなくても、メンバーの中や相談に乗ってくれる所をネットで探す。
- ・とにかくお金をかけずにできる手段を探す。
- ・理想のサイトなどを見て学ぶ。
- ・自分たちの広報活動のページを作成し、運営する。

みなさん、やった事が無い新しい挑戦に戸惑いや不安があったが、初めから上手くいかないので、いろいろ試して自分たちの物を作り上げるというスタンスで、とにかく情報通信技術を使って広報をやってみよう！という方向に進みました。

【3日目】

日本遺産 北前船ルート散策に参加

江戸時代から明治後期まで活躍した北前船のルートに沿って、現存する倉庫などを見学しました。

当時日本の海を行き交っていた廻船の多くが運賃で利益を得ていたのに対し、北前船は大量の荷物を積んで出発し、数ある港に寄港してその土地の特産品を仕入れては、それをほかの港町で売って利益を得ていました。つまり「安く仕入れた積荷を高く売れる場所で売る」という商いをしながら航海するという、当時としては独自のビジネスモデルで運営していたそうでした。

そのころに建てられた倉庫は、外壁に札幌軟石を使用し、内側は木の骨組みで出来ている木骨構造となっていました。当時建てられた倉庫がそのまま残り、それを活用して新たな店舗もできて街全体が活性化しているのを感じました。街の真ん中を流れる大きな運河を埋めてしまうという計画があり、意見を戦わせ半分だけ埋めるという事になったとの事、この街に対する道民の強い愛着心がうかがえました。今も美しい景観を保ち大変歴史を感じる場所でした。

2泊3日を有意義に過ごさせていただきました。ありがとうございます。

以上

牧田恵美さん（大東市）